

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2年	国語	論理国語	特進	2	小平
教科書	数研出版「論理国語」				
副教材	『708論理国語準拠ワーク』(数研出版), 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500三訂版』(いいずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店), 『評論速読トレーニング1500』(数研出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についている。 ・文章構成の理解する(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)。 ・情報の扱い方を理解する(情報の重要度による整理、推論)。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力。 ・文脈を捉え、自分の知識を踏まえて文意を理解しようとする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組み、ノートの内容を工夫する。 ・グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。 ・ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。				
	考查 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)				
	観点② 演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)				
	観点③ ①予習②感想・まとめ ③課題(小テスト) ④授業姿勢(各5点)				
授業のねらい・進め方・注意点	文章を自力で正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。抽象的な概念の理解やそれに対応する具体例を自分の力で考えながら読解することができる力を身に着ける。語彙力を強化するために漢字テストを適宜実施する。また自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを理解するためにもペアワーク等には積極的な姿勢で臨むことを期待する。スケールテストやその先で求められる学力を身に着けていく。				
家庭学習	学習内容と進め方	漢字『TOP2500』～P175(第二章重要語ランクCまで)を2周する。			
	学習の目安時間・分量	毎週書き取り4ページ分(読み取りの場合は8ページ分)を範囲として学習する。			
	学習状況の確認方法	毎週小テストを実施。また、定期考查において、教科書の文章内で該当する語や漢字について問いを設ける。			
	成績評価との関係	主に観点③の点数として評価するが、観点②における内容理解等にも反映され評価に影響する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする。 ・関心のある領域の新書等を積極的に読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	「手の変幻」	「弱いつながり」 ※漢字TOP2500 P 124~P 151 中間考査 『『内的成長社会』へ』 「胆力について」 ※漢字TOP2500P152~175 期末考査 ・逆説的表現の理解 ・近代の概念の理解 ・その他入試過去問演習
	5		
	6		
2	7		
		「国境を超える言葉」	「未来世代への責任」 中間考査 「日本語は非論理的か」 「白紙」 ・言語論の理解 ・その他入試問題演習
3		「『安楽』への全体主義」	近代の概念を理解する

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	文学国語	特進文系	2	宮城
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	入試頻出漢字TOP2500、ニューエイジ現代文完成3 現代文単語『げんたん』改訂版、小説速読トレーニング、準拠ワーク				
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいことを的確に捉え、記述し表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、單元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 語句等の知識 (30点)、文学史等 (10点) 選択肢 (接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等) (10点)				
	観点② 演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等) (50点)				
	観点③ 予習 (5点)、感想・まとめ (5点)、 授業姿勢 (ペアワーク等の姿勢も含む) (5点)、読書活動 (5点)				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。 				
家庭学習	学習内容と進め方	各自問題演習を進めていくこと			
	学習の目安時間・分量	1週間で2~3題解けるとよい			
	学習状況の確認方法	適宜確認していく			
	成績評価との関係	成績に直接反映しないが、模試の成績推移を注視する			
図書資料	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1『無用の人』 原田マハ	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
	5	問題演習 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	6	2『山月記』 中島敦	代表的な作品を読み、小説とはどのようなものかを知る。
2	7	問題演習 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	9	3『ナイン』 井上ひさし	昭和後期の小説を読み、内容解釈・文体の考察を行う。
	10	問題演習 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	11	4『山椒魚』 井伏鱒二	昭和初期の小説を読み、内容を解釈し、作品を基に考えを深める。
	12	問題演習 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	1	5『こころ』 夏目漱石	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	2	問題演習	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	3	学年末考査	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	古典探究	特進文系	2	具志堅
教科書	『古典探究』数研出版				
副教材	・教科書準拠学習ノート ・『古典の手引き』および学習ノート ・『古文単語330』いっずな書店				
評価基準	観点① 知識・技能 古文分野：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする 漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 登場人物などの心情や作品の主題を理解する				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・本文プリントへの書き込み ・適宜小テストの取り組み				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10%				
テスト・評価の内訳	観点① 古文：単語・文法・古典常識（計50点） 漢文：単語・句法・歴史的背景（計50点）※古文漢文混合の場合も計50点				
	観点② 演習問題・記述式 （内容理解、現代語訳、心情理解、主題把握等）（50点）				
	観点③ 小テスト、感想・まとめ、授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）				
授業のねらい・進め方・注意点	・「古典探究」では古文と漢文を深く学習する。 ・文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。 ・音読、ペアワーク、問題演習などを通して、解釈に必要な知識や技法を身につけていく。 ・大学入試に必要な学力を身につけることを目標とする。				
家庭学習	学習内容と進め方	「古文単語330」			
	学習の目安時間・分量	1日5分1週間で30語～50語ずつ覚える			
	学習状況の確認方法	毎週単語テストを実施			
	成績評価との関係	主に観点③の点数として評価するが、定期考查における観点①観点②にも影響する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・単元で扱った文章について関心のあるものを調べるなど適宜利用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	『十訓抄』『大江山』	・工夫の仕方、予習について説明
	5	『古典の手引き』助詞 『漢文入門』使役・受身 ※小テスト 助詞 【中間考查】	・助動詞と助詞と敬語の理解 ・当意即妙についての理解 ・用言の復習、随筆の理解 ・受け身と使役の復習
	6	『大和物語』鳥飼の院 『漢文入門』否定①② 『古典の手引き』敬語	・敬語の理解 ・主語の取り方 ・否定の理解
	7	※小テスト：敬語 【期末考查】	※古文単語：1～180
2	9	休み明け 文法単語テスト 『更級日記』東路の道の果 『古典の手引き』助動詞 『漢文入門』疑問反語① ※小テスト：古文助動詞 【中間考查】	・源氏物語の影響について ・敬語の理解 ・古典常識の理解 ・疑問反語の理解
	10	『源氏物語』光源氏誕生 『古典の手引き』助動詞 『漢文入門』比較比況 仮定	・源氏物語の影響について ・比較比況と仮定の理解 ・敬語の理解
	11	※小テスト：助動詞 【期末考查】	※古文単語 181～280
3	1	休み明け 文法単語テスト 『大鏡』競べ弓 『漢文入門』限定詠嘆	・敬語の理解 ・限定詠嘆の理解
	2	否定③ 使役② 受身② 漢文思想	・諸子百家の理解
	3	【学年末】	※古文単語 281～330+151～180

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	地理総合	特進文系	2	佐々木
教科書	【地総046-902】 帝国書院 『高校生の地理総合』 【地図046-901】 帝国書院 『新詳高等地図』				
副教材	帝国書院 『高校生の地理総合ノート』				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的な知識を身に着け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に着けているか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図、資料を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。				
	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
考査	<p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10</p>				
評価	<p>観点① 授業で学んだ事柄について理解している。</p> <p>観点② 地図・資料、データなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。</p> <p>観点③ 社会に関心を持ち、時事問題などを自ら知る姿勢を持つ。 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。</p>				
テスト・評価の内訳	<p>(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に着けたらよいかを考えながら、授業を受けてほしい。</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	学習内容	社会情勢に関心を持ち、日々のニュースと教科書の中の事柄を結び付けて考えられるように、様々な情報に触れるよう心掛けてほしい。			
	学習の目安時間・分量	1日10分以上、新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネットニュースだけでなく、オールドメディアなどの媒体も活用すること。			
	学習状況の確認方法	時事ニュースに関して不定期に小テストを行う。また、時事ニュースに関するレポートを長期休暇の課題として課す。			
家庭学習	成績評価との関係	提出物、課題、小テストは観点③として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	新聞記事に関するレポート提出を課す。 図書資料の紹介を行う。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	地球儀と地図	地球上の位置と地上の現象 経度の違いと時差
	5月	地図と地理情報システム	球体と平面の世界 地図の種類 地理情報システムの利用
		現代世界の国家と領域 中間考査	国家の領域と国境 地図からみる日本の位置と領域
	6月	地図からみる国内や国家間の結びつき	国際機関・貿易・交通通信・観光
	7月	世界の地形と人々の生活 期末考査	生活と地形のかかわり 河川・海岸の地形 氷河・カルスト地形・乾燥地形
		2	9月
10月	世界の産業と人々の生活 世界の言語・宗教 中間考査	農業・工業 言語・宗教の多様性	
	11月	生活文化の多様性と地理的環境 東南アジア ヨーロッパ	季節風と生活文化 伝統の継承と生活文化
	12月	期末考査	
		3	1月
3	2月		気象災害と防災 自然災害への備え
	3月	学年末考査	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	日本史探究	特進 文系	4	小倉
教科書	山川出版 詳説日本史探究				
副教材	帝国書院 日本史通覧 啓隆社 日本史重要語句 Check List				
評価基準	観点① 知識・技能 歴史事象や歴史用語を時代の流れに即して習得することができるか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 歴史事象の理由を探究することができるか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 自ら進んで授業動画や副教材を進めることができるか。 自ら進んで課題に取り組んでいるか。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50% + 観点②学年末5% + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内容を中心に教科書、チェックリスト、プリントから出題				
	観点② 授業内容を中心に教科書、プリントから出題				
	観点③ 授業末課題と授業動画取り組み状況の提出				
授業のねらい・進め方・注意点	世界の中の日本を意識し、他国との関連の中から動く歴史であったり、日本古来の特徴を他国と比較したりしながら展開していく。歴史事象を単なる暗記事項として扱わず、エピソードや流れの中での理由や展望とともに述べながら、歴史を語る生徒の育成に努めたい。				
家庭学習	学習内容と進め方	日本史重要語句チェックリストを進める。日本史講義動画の視聴を進めていく。			
	学習の目安時間・分量	1日30分程度			
	学習状況の確認方法	定期考查の得点具合、および提出物			
	成績評価との関係	チェックリストの出来具合は観点1に、日本史講義動画の視聴は提出物として観点3に反映される。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 プリント	中間考査まで：飛鳥時代～平安時代 律令国家の形成過程を学ぶとともにそれが崩壊していく様を学ぶ。
	6	教科書 プリント	期末考査まで：平安時代～室町時代 平安中期の土地制度の変化から武士が生まれ、その武士が政権を獲得し運営していく様を学ぶ。
	8	教科書 プリント	夏期講習：戦国時代～織豊政権 群雄割拠の時代から織豊政権・徳川幕府へと統一されていく様を学ぶ。
2	9	教科書 プリント	中間考査まで：江戸時代～明治維新 平和の中の諸問題が解決される中、外国からの圧力が明治維新へとつながる様を学ぶ。
	11	教科書 プリント	期末考査まで：明治時代～大正時代 不平等条約を課せられていた日本が富国強兵に努め、欧米列強に並ぶ国になっていく様を学ぶ。
3	1	教科書 プリント	学年末考査まで：昭和 経済恐慌に端を発しながら外交関係の不調に連なり、世界大戦へと突入していく様を学ぶ。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴公民科	世界史探究		4	内田
教科書	『詳説世界史』(山川出版)				
副教材	山川 詳説世界史図録 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。				
	観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	古代から近世までの世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
家庭学習	学習内容と進め方	大学入試問題の演習と解説プレゼン資料の作成を毎日進める 連休などにスタディサブリの動画を配信するので連休は自学自習			
	学習の目安時間・分量	1日20分。問題演習やプレゼン資料作成、動画視聴や復習など。			
	学習状況の確認方法	プレゼンの内容で理解度を確認。動画については視聴しているかどうか確認。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。プレゼン内容や動画視聴は確認テストまで行っているかどうか。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	分からないことや調べたいことがあれば適宜。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	第1章 文明の成立と古代文明の特質 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第6章 イスラム教の伝播と西アジアの動向
		副教材	
	中間考査	5	
		5	
		6	
	期末考査	7	
		7	
2	9	教科書	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と環大西洋革命
		副教材	
	中間考査	10	
		10	
		11	
	期末考査	11	
		11	
3	1	教科書	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容
		副教材	
	学年末考査	2	
		2	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学II	特進文系	4	花澤
教科書	数研出版 数学II				
副教材	サクシード 数学II				
評価基準	観点① 知識・技能 問題を解くための最低限の知識（二項定理・剰余の原理・軌跡と同値変形・加法定理・対数の定義・導関数の定義・微分計算・積分計算etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方、論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
考査	上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書例題レベル、サクシードA問題レベルの基本的な問題を50点分出題。				
	観点② 教科書応用例題レベル、サクシードB問題、重要問題レベルを50点分出題。				
	観点③ 小テストの成績および日々の課題の提出状況で評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点	共通テストをゴールとして、基本的な数学的事実（およびその原理）とその使い方について学習します。数学の学習は突き詰めれば「数学特有の言葉遣い（＝定義）と数学特有の考え方（＝論理）について学習すること」と言えます。知識を運用するゲームとしてではなく、数学の世界の言語と考え方を身体化しようという目標のもと取り組んでください。				
家庭学習	学習内容と進め方	・ノートを用いて、その日に学んだ数学的事実とそれが成り立つ原理・および簡単な問題への運用法を復習する。その後サクシードで類題演習。 ・共通テストで数学を使うものは、「全レベル問題集1」もしくは「大学への数学 入試数学の基礎徹底」を用いて数学の学習を行う。			
	学習の目安時間・分量	・授業がある日には60分程度で授業の復習及び類題演習を行うとよい。 ・共通テストで数学を使うものは休日にも2時間程度割くとよい。 ・おすすめ参考書と問題集→「全レベル問題集1」「大学への数学 入試数学の基礎徹底」「数学の真髄 論理・画像」			
	学習状況の確認方法	スタディプラスに学習の記録を挙げる。できるだけチェックします。課題は各試験までの期間にまとめて出すので、こまめに提出しても良いし、試験前にまとめて出しても良い。質問はスタディプラス上でも課題上でも口頭でもどのタイミングでもOK			
	成績評価との関係	家庭学習がそのまま試験結果に直結する。観点③の評価については課題提出状況も加味する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	類推の山 ルネ・ドーマル 論理哲学論考 ウィトゲンシュタイン				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	式変形：3次式の展開と因数分解・二項定理・分数式・除法の原理 等式と不等式の証明：A-Bの計算結果が0（正）になる・恒等式・多項式として一致する・相加平均と相乗平均の関係 二次方程式：数の体系の拡張・判別式は解の公式のルートの中身・解がわかれば左辺を因数分解できる
	5	中間考査までにサクシード重要例題1~44	高次方程式：除法の原理がわかれば剰余の定理は当たり前、因数定理も当たり前・知っているものに還元する・3次方程式の解と係数の関係は作り方で覚える
	6	6	期末考査までにサクシード重要例題45~73
2	9		軌跡：必要十分がカギ
	10	中間考査までにサクシード重要例題74~101	三角関数：単位円を使いこなす・グラフは最初に周期を確認・加法定理を覚えてほかは自分で作る
	11	11	指数対数：指数はざっくり「かける回数」・指数法則は当たり前・底を揃える・グラフの単調性・対数で指数を取り出せる・底の変換はベクトルに似ている・変数が複雑な二次関数だと見抜く・10をかける回数を知りたいから常用対数を使う
12	12	期末考査までにサクシード重要例題102~130	
3	1		微分積分：極限は近似である・微分係数は飲み物、導関数は自販機・微分係数は接線の傾きが得られる・接線の傾きの変化を調べるから関数の増減がわかるし、グラフも描ける・グラフが描けるということは関数の最大最小がわかるということ・微分の逆計算として積分を理解する・積分で面積がわかる・カタマリの積分ができる嬉しいことが多い
	2	2	学年末考査までにサクシード重要例題131~169
	3	3	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学B	特進	2	駒崎
教科書	数研出版 数学B・数学C				
副教材	サクシード数学IIBC				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 問題を解くための最低限の知識（基本的数列・シグマ記号の扱い・数学的帰納法の原理・漸化式・ベクトルの加減実数倍・基底による表示の一意性・内積etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 ①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えそうな知識を列挙し、解決を試みようとする態度。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書例題レベル、サクシードA問題レベルの基本的な問題を50点分出題。				
	観点② 教科書応用例題レベル、サクシードB問題、重要問題レベルを50点分出題。				
	観点③ 小テストの成績および日々の課題の提出状況で評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点	数列とベクトルという抽象度の高い概念を学習します。特にベクトルは、この概念を中心として数II「図形と方程式」数C「複素数平面」を考えるとできる強力な道具です。数列では具体的に書き出して観察する姿勢、ベクトルでは「基本的な移動を組み合わせれば全ての移動が再現できる」という基本理念のもと学習する姿勢が重要です。ノートは板書を写すことに留まらず、自身の考えも残しながら取ることによって理解度を上げることが出来ます。家庭学習に関しては下記を参照してください。				
家庭学習	学習内容と進め方	ノートを見て、概念の理解をする。数学特有の言葉遣い＝定義と、数学特有の考え方＝論理の2つを、具体例を通して自分のものにする。その後例題演習に移る。式だけでなく、式同士をつなげる考え方まで確認する。その後、問題集や参考書で類題演習等に移る。			
	学習の目安時間・分量	週15時間を家庭での数学の授業に充てるとして、特に数学Bの内容には週4~5時間程度は割いてほしいので、それを想定した課題を用意します。			
	学習状況の確認方法	課題の提出等			
	成績評価との関係	観点③に含む。そもそも日頃の学習が試験結果に直結する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 参考書 ノート	数列とは 基本的数列の扱い シグマ記号 数列を式で説明するのが漸化式 数学的帰納法
	5	サクシード	
	6		
	7		
2		教科書 参考書 ノート サクシード	ベクトルを点の移動としてイメージする ベクトルの和・差 ベクトルの拡大縮小＝実数倍 ベクトルを具体的に説明したものが成分表示 基本的な移動の方向＝基底 平面の基底は2つで良い 内積の計算 ベクトル方程式は軌跡のベクトル版
3		教科書 参考書 ノート サクシード	空間ベクトルも点の移動 成分表示は3つになる 基底も3つ必要 空間の方程式を得るのはベクトルが便利

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎	特進文系	2	齋藤
教科書	等学校 化学基礎academia 実教出版				
副教材	アクセスノート化学基礎 実教出版				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50% + 観点②学年末5% + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	<p>観点① ・教科書の本文や参考、演習に記載された語句の意味を、どの程度理解しているか。 ・副教材の演習問題に習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。</p>				
	<p>観点② ・教科書の論述問題などの問いに対して、意見を述べられるかどうか。 ・副教材の演習問題への習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。</p>				
	<p>観点③ ・ノートや振り返りの中身に表れる意欲（10点） ・実験レポート、調べ学習レポート等提出物または発表等の中身に表れる関心（10点）</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容と進め方	問題集および授業で用いた演習等を、テスト前だけでなく普段から随時復習として解くこと。また、完全に解け、解説できるまでやりきること。			
	学習の目安時間・分量	毎回の授業をその日のうちに簡単でも良いので復習するよう心掛けること。			
	学習状況の確認方法	定期考査最終日に教科担当に提出			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

※ 授業の進度により、多少変更することもあります

学期	月	教材	内容
1	4	化学基礎 2章 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合 4節 化学結合と物質	イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 分子からなる物質の性質を理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。
		5 3章 1節 物質と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を学ぶ。 物質と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。
		6 7	
2	9 10 11 12	2節 酸と塩基 3節 酸化還元反応	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係およびpHについて理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。 酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。
3	1 2 3	3節 酸化還元反応 演習	酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 共通テスト対策の演習

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	保健	特進文系	1	保健体育科
教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題				
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題				
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含）レポート提出				
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	右記、授業計画の内容をもとに授業を実施する。分からない内容があれば、各自で復習すること。			
	学習の目安時間・分量	教科書やノートの内容を理解するまで。			
	学習状況の確認方法	定期考査もしくは授業内でノートの提出。 ※担当者からの指示を確認すること。			
	成績評価との関係	観点3			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	必要があれば提示	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康 ◎ノート提出 ☆期末考査
	5		
	6		
2	7	必要があれば提示	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動 ◎ノート提出 ☆期末考査
	9		
	10		
	11		
3	12	必要があれば提示	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法 ◎ノート提出 ☆期末考査
	1		
	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	体育	特進文系	3	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点①	体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる ※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価			
	観点②	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
	観点③	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	必要があれば提示	○オリエンテーション ※新学期・実技指導・内容説明 ○新体力テスト
			【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	9 10 11 12	必要があれば提示	【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
			【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	1 2 3	必要があれば提示	【グラウンド・体育館・柔道】 持久走
			【ダンス】 ・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導 ※実技テストも行う。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
	英語	EC II	特進	4	山浦
教科書	FLEX English Communication II (増進堂)				
副教材	大学入試 英語長文読解問題集 Vertex Level 3 リンケージ英語構文 (旺文社)				
評価基準	観点① 知識・技能 長文：扱った長文の表現をoutputできる、文章展開のキーワードがわかる 構文：基本例文で扱った事項をもとに、構文の役割および日本語訳ができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 長文：各パラグラフのTopic Sentenceを見極める、Summary & Opinionが言える 構文：整序英作文および英作文ができる				
	入試問題：授業で習ったことを入試問題で応用できるかどうかをチェックする 観点③ 主体的に学習に取り組む態度 英語アプリ レシピの取り組み 暗唱/筆記テスト (リンケージ英語構文の基本例文)				
	試験				
1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記試験は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① Target1900、リンケージより出題				
	観点② Vertex、初見長文問題、リンケージ応用問題				
	観点③ 英語アプリ レシピの取り組み 授業内実施の単語テストの取り組み				
授業のねらい・進め方・注意点	文構造をしっかりと理解する。(品詞分解) 段落構造を理解する。 読解スピードを意識する。				
家庭学習	学習内容と進め方	レシピで配信されたものを取り組む その他授業中に出される課題			
	学習の目安時間・分量	各セクション1時間程度			
	学習状況の確認方法	レシピ内で確認可能			
	成績評価との関係	観点③に加味する			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	【1学期中間】 Vertex Unit 1-3 リンケージ 7-23	Vertexは左記の進め方 リンケージ英語構文は、1考査ごとに1章分進めていく
	5	中間考査	考査ごとに入試問題も扱う
	6	【1学期期末】 Vertex Unit 4-7 リンケージ 24-43	
	7	期末考査	
2	9	【2学期中間】 Vertex Unit 8-10 リンケージ 44-60	同上
	10	中間考査	
	11	【2学期期末】 Vertex Unit 11-14 リンケージ 61-80	
	12	期末考査	
3	1		同上
	2		
	3	【学年末】 Vertex Unit 15-18 リンケージ 81-100	
		学年末考査	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	論理・表現II	特進	2	猪瀬
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)				
副教材	英文法[強化]演習New Frame 650 New Edition (同上・別冊Mastering Aid付) Bright Stage 英文法・語法問題				
評価基準	観点① 知識・技能 ・ New Frame で基本項目を習得し、Exercise問題を正しく解ける				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・ New Frame対応項目のBright Stage問題を、①を元に正しく解ける				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ Bright Stage確認テストに、積極的に取り組んでいる				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① Bright Stage熟語問題、New Frameで解いた問題をそのまま出題する。				
	観点② New Frameの改題、初見応用問題を出題する。				
	観点③ 授業内確認テストへの取り組み状況。				
授業のねらい・進め方・注意点	3段階で進める。授業時数が少ないので、予習が多くなる。 ①New Frame各章最初のFramesを各自で解き、Mastering Aidで確認する。 ②New FrameのExercisesを解く。解答解説は授業内で行う。 ③授業時に、Bright Stageで確認テストを行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	指示された予習はもちろんのこと、復習に積極的に取り組む。復習の一環として各章最初のFramesを音読する。なぜその選択肢が正解なのか自分で解説しながら解く。New Frameだけでなく、Bright Stageの該当箇所を最低3回は解く。			
	学習の目安時間・分量	最低でも30分程度は実施。授業当日・週末・考查前など、内容を忘れそうになった頃に復習を繰り返すことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	確認テストを適宜実施。また、定期考查で定着度を測る。			
成績評価との関係	観点③の評価に加える。				
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	STEP 01 時制	★進度変更の場合は都度連絡します。 1学期中間考查 1学期期末考查
		STEP 02 態	
		STEP 03 助動詞	
		STEP 04 不定詞と動名詞	
	5	STEP 05 不定詞	
		STEP 06 動名詞	
		STEP 07 分詞	
		STEP 08 動詞の語法	
2	9	STEP 09 イディオム [動詞関連]	2学期中間考查 2学期期末考查
		STEP 10 仮定法	
		STEP 11 比較	
	10	STEP 12 代名詞	
		STEP 13 形容詞と副詞の語法	
		STEP 14 イディオム [形副関連]	
11	STEP 15 会話表現①		
	STEP 16 関係詞		
3	1	STEP 17 接続詞	学年末考查
		STEP 18 疑問と否定	
		STEP 19 名詞と冠詞の語法	
	2	STEP 20 イディオム[名詞関連]	
		STEP 21 前置詞と群前置詞	
	3	STEP 22 その他の重要文法事項	
		STEP 23 会話表現②	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭	家庭基礎	特進文系	2	矢部・青柳
教科書	ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 教育図書				
副教材	家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ 教育図書				
評価基準	観点① 知識・技能 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を習得するとともに、それらに係る技能を身に付けられたか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、課題設定、解決策の構想、実践の評価・改善等、生涯を見通して課題を解決する力が養われたか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとする気持ちを育むとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が養われたか。				
考查	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考查(実技含む) 全て、観点①45点+観点②45点+観点③10点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2・3学期:観点①(筆記35点+実技10点) + 観点②(筆記35点+実技10点) + 観点③ 10点 ※実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
テスト・評価の内訳	観点① 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(野菜の切り方テスト等)				
	観点② 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(作品等)				
	観点③ ロールプレイング発表、課題・レポート提出等				
授業のねらい・進め方・注意点	家庭科では、生涯を通してよりよく生きるために必要な知識・技能を習得し活用できる力の育成とよりよい社会の構築に向けて主体的に生活を創造する力の育成を目指しています。 生徒一人ひとりが自ら生活をつくる主体であることを実感できるように、様々な分野に着目しながら授業を展開したいと考えています。				
家庭学習	学習内容と進め方	教科書の特性として、毎日の生活での経験や体験(自分が日々感じていること)が学びにつながる。日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。			
	学習の目安時間・分量	卒業後、自立して生活するには特に衣・食・住に関しては、他者に助けを求めず、自力で解決することが大切である。そのためには繰り返し経験を積むことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	生活の中で困難な場面に遭遇した時に、習得した知識・技術が発揮できれば良いと考える。			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	・暮らしの手帖 ・栄養と料理				

授業の計画

学期	月	教材(教科書)	内容
1	4月	生涯の生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 人は一生発達する これからのライフイベント 人生の課題を解決しよう 自立への一歩を踏み出そう 家族 家庭とは? ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	5月	青年期の自立と家族・家庭	
	6月	住生活と住環境	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割 平面図の読み方 これからの快適な暮らし方 ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	7月	子どもの生活と保育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長の特徴 調理実習(幼児のおやつ) 親の役割と子どもの生活習慣
		期末考查	作品提出
2	9月	高齢期の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の変化 高齢化の現状と課題
	10月	食生活と健康①	
	11月	実技テスト (野菜の切り方テスト) 食生活と健康②	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と食事 現代の食事 栄養素の分類と食品 食品の選び方(加工食品の表示) 調理実習(郷土料理) テーブルマナーを知る
	12月	食生活と健康③	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習(クリスマスケーキ) 食文化を継承しよう
		期末考查	
3	1月	消費生活と経済計画①	<ul style="list-style-type: none"> 消費者と意思決定 契約の重要性 多様化する支払方法と返済方法
	2月	消費生活と経済計画②	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな消費者問題 消費者を守るしくみ
	3月	グループ発表・課題提出 学年末考查	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任 消費生活と経済のつながり

二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>二年次では、一年次に身につけた基礎をもとに、自らの興味・関心に基づく個人探究を行い、自身や学問分野への理解を深める。日常のゼミ活動や中間発表、最終発表会等で得たフィードバックを生かし、探究内容の深化を図る。三学期には、自身の進路につながる探究テーマを考える。</p> <p>一学期 自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマ(課題)を設定する。 二学期② 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。 三学期 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を設定する。</p>
教材教具	<ul style="list-style-type: none"> □ iPad □ Benesseキャリアナビ・プログラム(オンライン) □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマを設定する。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定の方法を確認する。 2. 自分の興味・関心に向き合う。 3. 図書資料を活用し、予備調査を行う。 4. 自分の興味・関心に基づき課題設定を行う。ゼミ活動を始める。 5. 情報収集の方法を知る・選ぶ。図書資料による文献調査は必ず行う。 6. 情報収集を行う。アンケート/インタビュー/実験/観察/現地調査を必ず行う。
夏休み	情報収集を継続する。スライドを作り始める。
二学期	<p>探究成果発表会に向けて個人探究を進める。ゼミ活動で内容を深化させる。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整理分析する。 2. まとめを行う。成果物作成の際は、参考・引用文献を必ず記載する。 3. 中間発表(スライド)を行い、フィードバックを得て振り返りを行う。 4. フィードバックを元に改善や、追加調査を行う。 5. 論文の作成方法を理解し、論文を作成する。 6. ゼミ内で論文を添削する。 7. 可能であれば、外部コンテストや発表会に挑戦する。

三学期	<p>探究成果発表会を行う。自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 探究成果発表会に向けてポスター作成を行う。 2. 3学期中に探究成果発表会を行う。 <p>【探究成果発表会について】 同学年・低学年生徒、教職員、保護者、大学教授等に向けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 発表会で得たフィードバックをもとに、論文を修正し、完成させる。 4. 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。
春休み	引き続き、自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考え、三年次につなげる。

授業のねらい・注意点	
ねらい	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを行う。ゼミ活動を行いながら協働的に学ぶ。 ・自己を知り、社会を知り、将来につなげる。 ・記録を残し、成果物を作成する。

個人探究における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>※二年次は個人での探究の機会が増えるが、ゼミ活動や発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミ内で、複数名のグループに分かれる。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、質問や+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を繰り返し、多角的・多面的な視野や多様な価値観を得る。 ⑤話し手は、不足している視点を改善したり、追加で「情報収集」したりする。 ⑥改善した上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 質問やアイデアがあることを本人に伝える。 その際は、非難にならないように注意。 良いところも伝える。 会話の流れを記録し、さかのぼれるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は、「物事を多面的に視る」という点である。個人探究においても、「気づき」を促すアドバイスを送り合い、他者の学びに貢献することが重要。</p>